

神垣 司



筆者右側手前。着任パーティにて。

学歴／職歴

2004年 東京大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 修士課程 入学

2010年 同博士課程 修了(医学博士)

2011年 カリフォルニア大学バークレー校 博士研究員 (HFSP 長期フェロー)

2019年 シンガポール南洋理工大学医学部 Assistant Professor 着任

本郷からバークレー、そしてシンガポールへ

世の中にどのような研究・学術分野があるのかについて、ある程度まともな知ることができたのは大学に入学してからでした。その中で、私はシステム神経科学という分野に強く惹きつけられました。精神作用といった観念的な現象を神経細胞の活動という客観的な計測で説明しようとする、そんな夢のような学問があるのかと心を掻き立てられ、意思や思考といった高次機能を支えているであろう神経細胞の活動を実際に観てみたいとおぼろげながら思うようになりました。関連書籍や学術論文を読

み進路をいろいろと模索する中、当時本専攻にいらした宮下保司教授の研究室に修士生として所属することで、念願の研究の第一歩を踏むことができました。研究プロジェクトは、サルに行動ルールを柔軟に切り替える課題を遂行させ、個々の神経細胞の電気信号を計測するというものでした。前頭前野、後頭頂皮質という霊長類で特に発達した領域を探索した結果、ルール切り替えの際に顕著に活動する、いわば切り替えニューロンが多く存在することを見出し、幾つかの論文にすることができました。

こうして研究人生の礎になった医科学専攻プログラムですが、学生は始めの猶予期間後に、多岐にわたる分野の研究室の中から配属先を選択することができます。研究室はいずれもレベルが高く、ラボローテに始まりその後の研究生生活を通じて多くの卓越した研究者の方々と知り合う機会に恵まれます。研究室を主宰される教授陣はもとより、その研究室に在籍されている先輩方、同期生達から多くの刺激を受け取ることになると思います。長い目でみると、実はこれこそが本専攻に入る大きな意義の一つであるといえます。卒業後は様々なキャリアの可能性があるかと思いますが、ここで得られる人脈や学術的刺激は後になってからもきっと役に立つでしょう。意外な人が困った時に助けたりすることもあります。

私個人も、ポスドクとして研究留学するかしないか、どのように決めるかといった問題に直面した際に、研究室内外の先輩方に相談させていただき、最終的にUCバークレーの研究室に決めることができました。また、ポスドクから次のキャリアに移るための職探しとなった際にも、様々な先輩方の経験談・ご意見を参考にしました。

自分の好きな研究を自由に独立しておこなえる環境を求めた結果、シンガポールでPIとして研究室を主宰するいまに至ります。研究室はまだ立ち上がったばかりですが、幸い多くの人々に支えられながら、研究を進めることができます。また、シンガポールは、世界的にも高い教育水準と治安の良さ、食事情の良さからHSBCによる住みやすい国ランキング上位の常連で、安心して住めています。近年殊に世の中の情勢は急速かつ大きく変化しています。その中で普遍的にあるいはますます重要となっているのが人とのつながりです。これから出会う方々とのご縁を大切にしてください。